

○事業所名	青森県立さわらび療育福祉センター		
○保護者評価実施期間	令和7年 10月 31日 ～ 令和7年 11月 25日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○従業者評価実施期間	令和7年 11月 17日 ～ 令和7年 12月 1日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 12月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	放課後等デイサービスの支援を行うスペースが比較的広い。 体を動かしてもぶつかりにくい。車椅子で動くにも十分なスペースがある。	車いすからマットに降りて過ごすなど、リラックスしたり、体を動かせるスペースを確保している。 活動に集中できるよう、シンプルな環境作りを行っている。 安全に配慮し、危険個所がないか点検し、対策を行っている。	利用児童に分かりやすいよう視覚化・構造化を更に進めていく。 安全点検を行い、事故防止に努めていく。
2	利用児童と職員が1対1で支援することができる。 色々な職員とコミュニケーションや関係作りができる。 職員も各利用児童の特性を理解し、アセスメントに生かせる。	毎日、主担当だけでなく、色々な職員が交代で利用児童を受け持つことにより、児童と職員双方の関係を深められ、多角的な視点からアセスメントすることができる。 各利用児童のペースに合わせて活動を提供している。	支援プログラムに沿って、5領域、4つの活動をバランス良く取り入れた活動を提供する。 個別活動の充実を図り評価を実施して、アセスメントに活かす。
3	利用児童や保護者との信頼関係が構築されている。 ショートメッセージの利用で、連絡を細めに行うことができる。 利用児童が来所を楽しみにしてくれている。	受容的な態度で保護者と接している。保護者とのやり取りの内容を職員間で共有し、要望等があれば検討して対応している。 ショートメッセージを活用し、気になることは、保護者にすぐに確認したり、報告するようにしている。	保護者支援のために、情報を発信したり、情報を共有していく。 保護者との信頼関係をさらに築いていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	DX化が進んでいない。	WiFi環境が通所事業所がない。 記録・請求ソフトが導入されていない。 DX推進のための働き方改革ができていない。 パソコンとスマートフォンはあるが、タブレット端末が少ない。	WiFi環境の整備やタブレット等の端末を導入し、活用していく。 記録・請求のシステムを導入する。
2	障害の程度が異なるので、集団活動に制限が生じる。	利用児童の受け入れに際し、制限を設けていない。 1日の利用児童が少人数の為、集団活動は全員で行うものとしていた。	小グループ別での活動も検討してみる。
3	地域交流の機会が少ない。	市街地から遠く、出掛けるのに時間を要する。 実施には学校休業日が適しているが、夏は当施設の行事（サマーフェスティバル）やバス外出等の行事があり難しかった。また、冬季は雪や感染症のリスクもあり、他所との交流は控えていた。	他事業所と連携し、交流会を計画する。